

## 経常収支黒字の無意味さ

原 宣一

日本人は貧しい時代が長かったせいであろうか借金や赤字は悪徳で黒字や貯金は美德であるという意識が強すぎるのではなかろうか。以下は2年前にT君が海外駐在員として赴任する直前に、しっかりドル減らしに貢献するよう、はなむけの言葉として彼に送った見解である。

「経常収支黒字は美德でない」

大蔵省が発表した一月の国際収支状況（速報）によると、経常収支の黒字額は六十八億三千百万ドルとなり、一月としては過去最高を記録したそうである。これでも一月の収支規模は他の月に比べて小さいので年間では千億ドル越えるとのことである。この黒字の半分を占める日米貿易の不均衡に対して、米国は重大なる懸念を持ち、このような状況に至った主因は日本の市場が十分に開かれていないからであるとし、強く改善を求めている。しかし、先般行われた日米首脳会談でも妥協点は見出せないまま新経済協議は決裂してしまった。

経常収支がやっと赤字から黒字になりこの傾向が揺るぎないものとなった頃、既に経済の専門家により累積黒字が四百億ドルを越えると大変なことになるとの警告が出されていた。それが今や一年間で千億ドルの経常収支黒字を作り出しているのである。米国の主張するとおり日本の市場を解放し、数値目標を受け入れれば、それだけで不均衡は是正されるものであろうか。スーパー三〇一条の復活等、米国の圧力は日増しに大きくなっているように見える一方で、これらは米国政府の国内向けジェスチャに過ぎないと見る人もいる。果たして累積黒字が一方向的に増える状況を放置しておくとうどうなるのか。

対米貿易黒字が五百億ドルあるということは、日本は米国に車や半導体を買った見返りに米国から五百億ドル分の物を持って来れる権利を有しているということである。日本の国際収支がバランスしていれば米国は日本に対してフラストレーションを持つことはない。何故なら日本が第三国から資源を買うために五百億ドル使ってしまったのであれば、米国は日本に資源を買った第三国に米国製品を売ればよいのだから。日本の市場が多少閉鎖的であることぐらい日本の事情として容認してくれたであろう。また、一方向的な黒字であっても日本が永久にこれを抱かえたままならば黒字は無かったに等しい。

そうではなく日本が何時の日か米国が大事にしているものを買占めてしまうのではないかと不安を抱かせていることが問題なのである。米国の貿易収支赤字が返せないほど増えてしまうと、何時の日か急激なドルの切り下げを伴う経済混乱が避け得ないであろう。

その前に日本は欲しくもないものを買うように押し付けられるかもしれない。いずれにしてもこのような事態になっては増えすぎた日本の経常収支黒字は幻の富に終わる。これは日本に取っても悪夢である。過大な経常収支黒字は決して美德ではないのである。

およそ人類が進歩した理由は分業を進めたからであるといつて過言でない。分業に付帯して本来必要な活動が物々交換である。この交換活動が経済活動であつて社会が複雑化するに従い、交換物としてサービス等のソフトも含まれるようになった。そして、経済活動に最も寄与した発明がドルや円の通貨であるといえよう。日米貿易が物々交換であれば極めて不便であるが一方的な黒字という事は起こり得ない。日本の企業が米国で製品を売った代金をドルや円で持ち帰らずに米国製品や資源を買ってくればなんら貿易黒字が問題になることはない。

巨額の経常収支黒字は日本のどこに行ってしまったのであろうか。これは必ずしもドルの姿をしていないので分かりにくい。これが日本国内の取り引きに使われるだけなら、いくら分散されても経常収支黒字は不変であることを認識しなければならない。外国から物を買わない限り絶対に減らないものである。従つて、経常収支黒字は企業の社内留保や預貯金等が主たる行き先であり、個人の筆筒預金にも一定の比率で潜り込んでいる。これらの余裕金を持つ企業や個人は積極的に外国が快く売ってくれるもので日本に役立つものを探して買ってくるべきである。千億ドルは日本人一人当たり十万円である。企業としては外国の企業に投資することも有意義であるが、その企業でドルを稼いだらこれを日本の黒字に転換させないよう務めなければならない。それにはその土地の文化の発展に寄与することを考えるのが良い。

(了)